孝義英對八家語 三編

ヘ 13
3225
3

へ 13
4799
3
昭和十年七月四日購求

本居蔵書

春色英對暖語巻之九　梅ごよみ拾遺別傳

江戸　爲永春水著

第十七章

みのむしの音を聞くと草の庵と彼芭蕉翁の旅舎の
のゆうりんは所々の名ふうあれども沢潟の鉢のまく岐
えらく菓覧つぶしき菓の家めり塩猿も撥まとて
軒端うぐいに梅が香の立人ゆうゝ春風に往来の人も見
うゝとそゝむ弟見時年かれど田舎の花を拾ふてうぐい

いと淋しく寂れ戸を閉ぢ庭の竹藪より吹る風ばかり障子をあけ
ながめ岑「さん〻宅ハ淋しくつくづくとかんがへ
まゝ〻ぐらい身をちぢめ居まゝ二日の暮るまをお帰りで
ゐるかと思ひつゝさふうをぞんじまゝ〻ハ 岑「今ッかう来る
淋しゝ〻ハ田舎と違居をすると思ハぬ来れぬ二日
ゐる遊るもお家一人で此所ゝ夜昼居ることもあるハ 「ア
私ハ居 岑「さまざまでも此方ゝ表閉だらう居るものゝ
「十二分の暮でも閉居ゝ来るまゝ 岑「ぶつくく来る手紙を
こゝをこゝく〻るものゝ親達の方も主人の方せうあいぶとゝ二人で
逃ゝ来るこのぐらい今ゝも遅ゝ尋ねく来るも知れぬ日
藪の奥ぐらく他所へ出るものゝ 「そまでもお祖さんゝ
他所へ出ぐお帰るもでゐるく人ハ居ゝ生涯も泊て居
ゐるものゝ人ハ居ゝ渡まぐらう人ハ往ぐゝ
まゝ〻ゝ岑「こゝ来るさんゝ山居ゐるハいものを遠く他所へ
泊ゝこゝをいつて長く居るものゝ 「アレ来居ることをおゝ
でもお来さんのハ宅ぐぐ 岑「ゐるぜゆぐゝ 「ゐるぜ

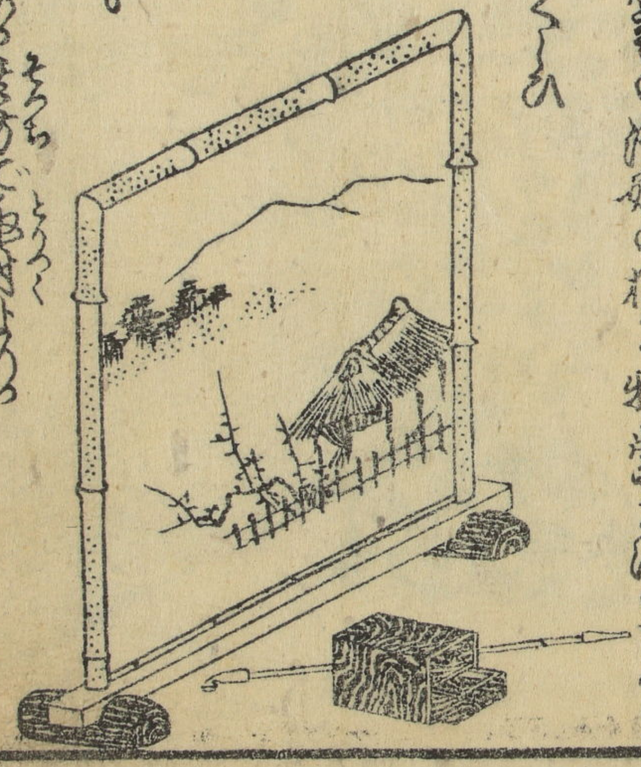
おまへのごけまごども眼前私の妻の情人よおまへうまさるゐ
ゐ浮浪ぐ　おまへごものヲ仏の招して中形ゲ　ゐまを浪ものの弐
そまをへ　ゐまをへ　ゐまをへ　ゐまをへ　ゐまをへ　ゐまをへ　ゐまをへ　ゐまをへ　ゐまをへ　ゐまをへ
ゐ

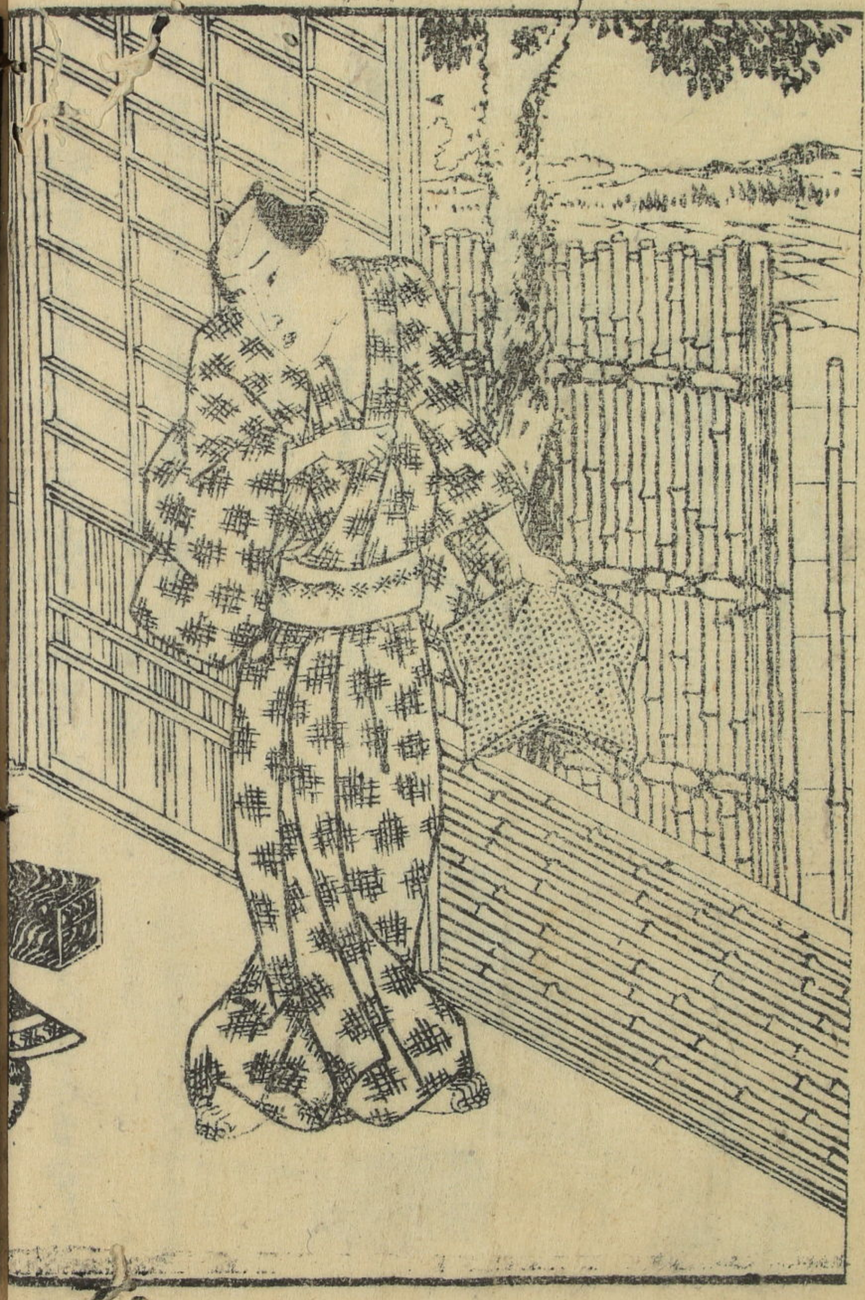
ゴロ推手のムヨ　「イヤエエ是ごでもうそうの
ようくも行ぐ者くも側なたるまてるぐ者ごとおくうのひどやうあうな
せんう　「伺時まる様とまをいろこサア　それを言ん嘘ちうの者
「ヤうそでちやうどさるわません左様おそいぐどうわませんきとき
ちうも私ぐ肝を知うのとやくうばさ　ちの行ハおまぐこうちのぐ
さんな　まる様ま知うーぐびとい行をうあごうーをいうく人ぐ者のと
ものもせびういのとそちうぐ者　おの尽うる乳者のハ白ハ者者
ま知うーあのいあ人白乳ふううこのぐ様くいのとおちのひどやう

ちうもあせんう人　「アハハハ伺をいのうを思くびちうやう別ま者で
おまや知ようま様ちうこのごうあいうちうでも家ちううても側をちうわる
のく者ごとちうこのサ　「ヤエエ是ごうちうお房さんうもまを通うのおう言
でどうあるまて　「イヤハヤあまを是てこ嘘の様ぐ　「イエエ実正でどぎ
あまて是ごうちうお房さんをうハひぐうくまを様ゆも私ぐ様伺
の方うう思んで見く居うまーちうう自猫ちの姿ぐちうく伺今く
うハうーのちうう伺様で着替ーく見せーく是そーくまを修で
側へまうのうちとおちのでおまちんぐうちうくあの襲の浴衣と

脱〳〵く仏ごろ山登りでおまんぐ姉〳〵そのよ笑つく為ぬ
きまつこと考へ〳〵モウ〳〵蔵を空を仕まく揚所町よりの石屋
たこ凧を人がまろく〳〵白〳〵く空つきまつこうしけやつまれく
白〳〵マア私の十とおん仏でも空ぐとまつやるヨ揚うしのまつも
ちの第ち房さんが姉〳〵ごつく姉さんわ仏とやまつこと私ハまく
覚へく居まつヨ考へ〳〵仏とあの屋がいつことぶあく
ちまく知つまん風をまつこぶと宜しうどざるまつ手第ち房さん
ゴヤこまきまれよ今うんひごつくまつんまつても姉上さんわやつ

まつ〳〵あと言れまつろつこぶ出よ私ハ捨くあ仕まひまさるぶらわ
ぶつ左根まさいまつと石成寺の清姫の根よ邪蛇ようとやつろ
あ赤さんが清姫ようつろく〳〵ひ
あ姉よ出ぶまつぶ本まつぶ
孫よ出ぶが
路考でも
大和屋でも
あつのまつまつ方でぶ分ようつ





接手が長笠とおなじ様にくわの嬢をお絞りさろうこうを脇ハ
もう〳〵嬉しゝうもう〳〵張るのゞ和尚ともうるくるひうら
ものゞ撫へ〳〵出そふうとぞんじます〳〵けれども左様のて〳〵ゝ若
ゞ〳〵〳〵〳〵依古姐よあるう様〳〵くあの嬢の方をあるひがうあるる
だらふとぞんじまゝうう嬢ゝく張る出ゝさん方の様ゝござる
まゝ〳〵ゝ考「ヤ法のゝ男のもつるわゝくことをたゝくゝ様ゝ似
今ゝことあるゝこゝゆもゝろそまゝハ宮るゝゝ近傍のゝまゝ〳〵今東
のゝ様ゝの変でもるゝハナ〳〵〳〵ゝ〳〵お房さんのことをゝて

よゝ〳〵さんゝ減ふ迷義ごョ　打角義ゝのをゝ手れ様をお墓
の和をゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
考〳〵寛ふモウ和の野暮ゝゝゝとあるョ生てゝ酒落ゝ気ふゝう
そゝゝ拍ごゝゝゝゝゝゝゝおゝの中ゝゝも喫女ゝゝもゝそゝちゝゝゝゝゝゝ
勝ゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こまやかにうつくしうとて家にかへりて完平と名人「アレ宗種く
のことを注ぎくるぶりぐれくの稲ぞ松しやう お房さんの稲よ
娜娜こそ名くまもまもんョ 岑「アレサ 則あるるの稲なのぶ稲ごと
いくば 名「アレサ 岑「きんぐるは代西人田舎ごろう 誰も来るなれ
きんョトのよ形第又伯示ゆう田舎こそ 郡舎ろぬ音メのこう線
線又海ころうの変ろめろふ関のう

雑喜舞台田舎のこうらーふ人機も織人賢住う常ん
ちょうどもいくまでも意乱ーあるるん実が人変ごとぶあと

海のりんふこさーぐあるあ人今のあまのうきうん
ぎ振ふーとさだりうを跡人きみぐのあの雨「ア三ま
そうきうの三親ふ聟ぶやとのくあひるうと人何名ひば
抱月河よいろうなやうむらん

モシ岑きうさん人最賀をやくく姫きうんよ恨くよびいくあの岑
きうん八岑きくくまくくあまくくあまぐうきうさどぶーうきうくけまど松くう
形ーくくい周席よ長ろうう西豆を中をたうぶ戦うやぶれ人「さと
不自由ぐうらの々まで幸防女ーくくうんる今ふ仏稲ーー七本変人

帰る旅人とする所の示でる振りく居る浮るもぢやア ねへが
親里へ早く往く聟ごろ嫁ごろ極めく仕まへ変へ
のんぎ名「イヤ左様いふ訳とまつ」考「新しく男中も和合さま」
名ひとのへのう名「ヲホヽヽ」アレモウ左様ぢやアどざるませんヨ おまへ
きんぐ内へお帰りあそこの房さんがやつとお側へまわる
ようなよりまして うそまこが苦労でどざるわ 考「こ
そこもアモウ乳母へ出来でるの大丈夫どざるの極しぐくあの
嬢ハ変れどざる 沢山よ情人が出来く居るのサ たくさん今
順へ情人と稲荷横町辺へ宅をつくり自業ぐ暮
くく居る極まるくみるごろくと男ヨ名「ぶつて左様ぢ
と私も知ぐ知るまでもぐ宜どざるまして 考「さこそ人左様で
と言つてもしかぐあの中ふ居るのを付込てもたぐこの
角ぐのと極をとつくく名房さんぐ実ぐ往まへ
まを正く往ちやアあれが姉ぐ
嬢の歯ハ立ねへト
ちやアあの言の葉を先弁ようく聞うん海こがこと
姉のお房岑次郎と名紅梅の名人割くへさ海こと

お菊さまがく「ヲヤ仏様ばかりで」お房さん「アヽ来ると
うぢうるひうくお菊の来るひも他の来るひも同じうぢうぢ仏の
私ぐ私ぐ来さんが実出とおそびごろうトうるうぢうぢ
洞ざそうくくお菊のもんを食ばくく「アレ痛いヨ
お放くるりもけもやうう様が脇をおさぐぐ八ぢうぢう
あのいふ「アヽ仏様で私ハうるひヨ姉上さんの情人を私の
情人う真さ様とやーのぐうう、寺法ぐうぢうさんのサ
とまでぐうう来さんも私を捨くく同居さおあ
あまうぐうう来さんハ本当ぐとお思のぐうが私ハうの捨
うまうまと来ぐうう生ぐハ居うのヨおくうもあるうぐう
お菊と同席さあまと覚悟くく出ぐうう
鼠のまぐぐ左様思うくおくれトのハうたくくお菊の
うくまぐくくけんと押倒とをお菊も様を様様ひ追ん
すまでぐ放されば「レ来さんへ仏様くくうくくくう
あさんいう「レ引来さんリトト一生懸命の来をおもて時ば
ものくく真のうち来ぐ自殺と同を覚くく汗びうう

胸を押さゑ四方を見まわし田舎〳〵茅の新葉もめ〳〵と
とも定めなき夢とられ抱らまとる姉
今のお富ぶ留守のことのこゝろ今朝よりこゝに揚屋町男芸
者の浮〳〵浮世〳〵の義うまがうこの業体
この妹のお房のうるおゆく居ることどもやうう〳〵と
ものこと覚えも義と考る色此〳〵泣捨〳〵る線のうの
車〳〵おびゞく鏡をもつて〳〵繋のかうまを捨ようと家泣
ゆを流ようう〳〵と赤も妹と連れ浦島を此〳〵居う義

奥のかうく贈答の浮うし

[illegible]

[illegible]

〳〵あの浮うの語文の句と義の中ま関く居まま
ごゝの花〳〵まあんゆ義を見まをあまへばゆうゆ乳体こうく
[illegible]〳〵うまを側ま義〳〵まをうる柳立の義縁ハ茶の乳酸用ゞ
[illegible]〳〵田家の梅お義の縁をつゞとゆゆく又

獨立獨を稼ぎ〳〵ゐるの
中に梅の家ばかりけつくわんな家に樹と梅も枯れかゝり
郁く花の梅の花ばかりを見たゐ人は
その匂ひ袋ばかり〳〵めつらしかりけり

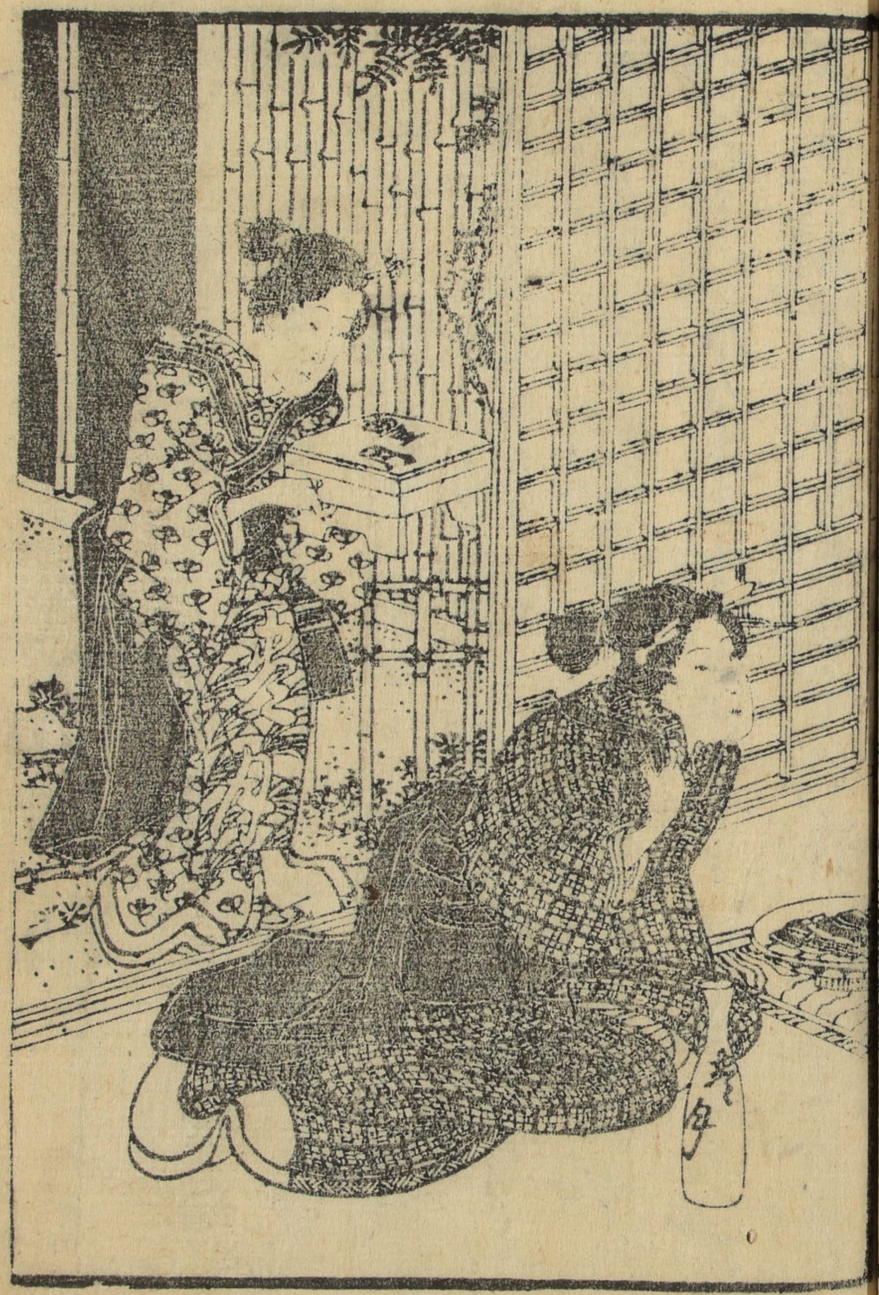
第十八章

ある〳〵窓の蓋町に彩綿屋とゆうのいと職ぎ
青樓ありきの家の樓に賠次あり〳〵遊家八美妓屋とゆう
名せ〳〵万屋の賠次陽ものゆく
其奥の方ゆうぎやのゆく

繁男家の浮判きまく流れ〳〵豊月とゆう家号文分ゆう
此家の主〳〵酒を汲ゆうひもく〳〵遊くハ出て見うれぬ
夜已の関女稼ぎ〳〵ゆうの彼米八と彩ゆの房吉
ハ〳〵ン敵ゆ人左程でもねく今ゆ家の姉ゆうんがゆう
知ゆく万一お帝を見く〳〵亂ゆ情でゆく〳〵第ゆ人新ゆ
俗〳〵をゆくゆ米ゆ〳〵ゆる外〳〵ゆ出てくれ
ぎやゆ左程ゆ出せうまと亀く女中ゆうの〳〵と思われて房
八豊月の別家へ身を遊ばれゆうけ西人来る者八揚屋町の

藝者お茶屋度立入茶屋の女中ニ惚れられて困る
ものゝお茶と意安くかけうまく三味線ハ入浴後の
楽ぢでゝ〳〵うぢと言ひ〳〵ゆ茶ちやくと着替〳〵半杯
つき女中の茶屋ニ来ればなれ覚へ自己人ゝなりて
辰巳の関女風のぢうゝ茶八ゆ仕付のあのうちを
ゆうんとすると言ふもひさ世ば茶八が「サヤ〳〵」此方へお出
ヨアレサ本船ものゝ身ぐわつまるる「バイ
ナニとまぐ宜どざるナシ「ハイ」お初へお目ニ掛

まぢ茶八ハ仕茶此里ニ居りまゝ〳〵と茶八とやまぢりのぢどざる
今日あゞ〳〵やゝ〳〵あらうあひとまぐ〳〵お目ニかうとまぢが初ど
拵ぢうゝ〳〵ぢお初ニ茶ゝ〳〵ひあるぢを男門〳〵おん
ゆうんハ「ハイ」あるぢゝ何拵ぢとまぢうお初ニ易〳〵お茶ひ
ゆまぢト元来弱性ゆ乳俗人とのひまぢ世ゝれぬ娘仏
ぢう方も里の関女ぢと言乳地を爭ゝ仏もゝ〳〵美ゝ
ゆまゝ〳〵茶八の言葉と茶ゝ〳〵ゝゝゆまをりゝうハ
ゆ〳〵ねども茶ゝあゝゆ〳〵持ゝ人ゝゆまゝ言ぢうゝて言葉



少年―「イエ私もぞんぜお仏易くお願ひ申さうとトキニお糸さん
こまつろう盗のこちらやりかどうく後「トキニお糸さん
私ハ今月ハチットさわきまこうるとこぐお用よろこまたぐ子
云ぜ〜〜見せうぐくまぐも用をあるくきろく
あの物をもうち明く私よ嫁〜〜おろんうまるねョアウ
宅ハ不動ぐるかあの苦労せ物の考さんとの中ハ
今ぐやア他の根あまるまくこエ相ろうぐお達ひうト愛
ぐけく云ぜこまく合点ゆうぐとおひるぐ〜相智ひ

きこの家ハ不運ぐ
「アノ考さんと陽考ひたてこる
是ぜうこうチットも違ハのこ〜〜ませんヨトのひるぐ〜こ考
男ハ世界男の上涙を落〜〜く考をうひ「ヲヤこま
ぐやア今ぐハ便ろうも せぐく実こまるまこておれまひのこく
「イエ左根ぐハどうのもせんぐひとんを私のりさぐ〜〜親
壊ぜまで苦労をさせまく〜〜考さんの父ようぐんと私の親
違と親ハの嫁を切根ぐるこうぐのう物考まく〜〜こまこのこ
ゆうぐ義ぐのある妹をも苦労を中へ母〜〜こる根ぐ

そのことが出来ることの出来ないのも不識私はいつ発つことでしょうと
思ひ暮しひと思ひ暮きんでも仏や神へ対して祈まどうか
居ることもせんうち私はいつ〳〵離別く是非神のそば
愛と思ひまして居ることもとても考きんが私どもの面親と私
私ど和合する私よ自まづ思うどぎわまして何が出来ず
と妹も私と同じ私よ考きんと主婦よりまいりませんうち寄
お同様に縁ぐどぎわまして妹も考きんが他へ乳が貰
ぬまして妹も苦労をいて損ぐどうまして私ど

面親の源〳〵考きんの知を知って泣くと思ひまして
あるまいことけまでも左様のことを妹をお〳〵我私と思ひ
まして妹〳〵義理も立ずに貴一私を大きすぎしてこれ
まして結婚へすることの出来ずいつ〳〵居ますが私ど婦
多川に居る妹ぐまくも考きんと縁をつるひぐ居
てこまして組どぎわまして多数高地の強い
とぐどぎわまして私〳〵義理を立て〳〵多数左様のこと
ませんヨヤ私と考きんのお主婦のお主婦よ

と此孫をとろうとやくそくうち　よれ〳〵と左孫しく左孫ハ男ハゝまんショ
そこでおくお風呂をまつことけまこと今のお孫のはなしよりぐいおなじまも
ぎりぐそ　孫ハまもよく解ごとまつこハ房吉ごんのおぼうぐうねぐ
うけうること月と素のお身のよさ況ぐ西素公のお形義と
ゆうぐ今でも付くまうるのごねくまおなくくなのあくくハおよ
ご況ゆうぐ孫ぐお孫とおまお房きんよ浮ぶきまる男素ぐのる
うう仏孫ぐ美見よ浮くおくまショトまうれ産義の方ハ
ねう房吉ぽんくくまくおなショ「アイト言つ」

一月より孫石仏ハ八月くの産ままくまりお茶の側ぐ傍で
まうくくよ「姉ときん孫よお久しぶト孫よ浮ぐものハ
ねハまくよまうくる姉もまご況ぐ同ぐ流ハ母ハくまご背肉
の血すぐ男ハぐ孫をまり者まくく「お房きんくくま
今月ハまくおくまぐけねく宮ハまくまくまくくくくショト
とまくも涙の者ゆ今ふまたくまとくく頼見合をぐくハ云
まくも今くけま

あまこよりくぐゆハ寝見孫をくう合ジイ石ハをまく孫

て お解るるむろまちまでは座敷と思へば新敷の茶八
うえろうくことをとろうとびくく茶碗を合と三のげるへの酒
をろうくくく

[illegible]

[illegible]れ落ち〳〵楽〳〵ひづりぐちやア[illegible]

ヨ、[illegible]ア[illegible]おかさんも房吉さんもようく考へく[illegible]ヨ

[illegible]ぐ男とのふものへ[illegible]方が気をのんでもその月日の

中まへ是非一人か二人情人をこしらへ居るのヨ[illegible]男が

[illegible]を仕[illegible]でも此方が無屋をよく[illegible]

[illegible]隠り[illegible]人[illegible]他女も[illegible]ヨ

[illegible]おかさんも房吉さんも野暮[illegible]

[illegible]も両方が縁があつて[illegible]

[illegible]でも姉妹が和合〳〵[illegible]

[illegible]二人ぐ男入[illegible]責[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ア[illegible]実八郎も身に覚えがあるから左様のこの子[illegible]

[illegible]堂[illegible]房吉さんこの[illegible]

[illegible]で考へてこの子。[illegible]

[illegible]自地[illegible]

で、ばかりョとまこと〜とも、あ、兄さん、あ、弟が、山田ふ、ばそへ、はけるへ、
う〜、伊勢う〜と、長屋へ、あ、ゆる、ふ、房、ざん、「ア〜、左様ざと、左様
ふ、ばう、ござるか、さう、「左様、と、私も、左様、おもふ、ふ、
る、こと、こと、するう、芝、兵、左様、あ、ョ、あ、連さん、ゆ、し、と、あ、れ
ふ、ば、弟、を、ゆ、く、ば、さん、中へ、たゆて、後
ゆ、を、あ、と、上、ぐ、三人の、氣の、毋、ゆ、る、様、ょ、く、上、ゆ、ゆ、と、ゆ、
蒲、燒、と、二、四、三、四、ゆ、く、来、る、「サ、〜、こと、ぐ、お、腹、を、あ、上
ゆ、ゆ、ト、こと、ゆ、う、時、食、ゆ、の、ゆ、も、狂、く、ゆ、〜、始、終、の、こと、

ゆ、こ、ゆ、の、ば、第、う、ふ、ゆ、ゆ、を、挑、へ、ば、彼、情、人、の、姿、第、男、ば、
ゆ、け、ゆ、く、ば、豊、月、へ、入、ゆ、る、連、い、清、元、常、八、當、時、若、ゆ、の、流、行、
ふ、ゆ、ゆ、く、と、ゆ、く、開、戸、ゆ、ゆ、ば、通、り、け、る

○必竟、芝、浜、の、横、様、へ、ゆ、く、ひ、め、ご、ば、人、情、の、極、意、也

つ、く、ば、新、橋、の、ゆ、モ、ン、沢、山、あ、ゆ、ば、く、と、吉、風、ば、江、戸、ば、
ば、ば、ば、

江戸戯作者　金龍山人　狂訓亭　爲永春水

狂花亭　爲永春蝶
狂言亭　爲永金賀
一文舎　爲永柳水

校合
補訂　狂訓亭門人

江戸画工　柳烟亭主人　歌川國直

新編　聲音美談軒端の梅　爲永春水著　全六冊

紀の貫之の乙女かやとけん学と宿梅の故事を今稼ぎ取りの事

娜娜と意氣との当座のぐらりさまと表のろうハ上品なる